

I Love Churui

I ♥ ちゅうるい

6/7

2020 Vol. 531



コントラクター1番草収穫作業が終了!!

令和2年度コントラクター事業による1番草収穫作業が6月10日から始まり、7月17日に終わることができました。

<http://www.ja-churui.com>

## Contents

青年部新入部員歓迎会	2
忠類中学校総合学習	
新採用職員農家実習	3
第4回～第6回理事会	4
JAグループ北海道座談会	6
JAグループ通信	10
普及センター技術情報	11
生乳生産状況表	12



## 青年部新入部員歓迎会

J A 忠類青年部（部長大澤憲人）は、六月十一日（木）にのみ食堂にて新入部員歓迎会を開催致しました。

新たに斉藤蓮さん（新生）、石黒拓海さん（日和）が加わり、総部員数は二十二名となりました。

大澤部長の挨拶で開会され、新型コロナウイルスの影響により厳しい一年となりそうですが、青年部員が互いに協力してがんばっていききたいと述べられました。

その後新入部員をはじめとした自己紹介を行いました。斉藤さんは青年部で多くのことを学び、自身の糧にしたいと語っていました。石黒さんは部員たちから多くの知識を吸収し仕事に活かしていきたいと語っていました。

また、新入部員歓迎会と合わせて十勝農業共済組合南部事業所の湯浅氏による「ウイルス」

についての学習会も行いました。

牛やヒトが感染するウイルスの実態や対策に関して説明してもらい営農形態に関係なく、各部員が真剣に傾聴し、質疑応答の際には積極的に発言をして情報交換を行っていました。

懇親会の中では、講師も交えて行い、各部員親睦を深めました。



斉藤 蓮さん



石黒 拓海さん

## 忠類中学校にて百合根の学習が行われました！

忠類中学校三年生の「総合的な学習」の中で、新生の大坂崇士さんを講師とし、百合根についての学習がありました。

この学習を通して、将来につながる職業観・人生観を養うことなどを目的としています。

六月三十日に中学校三年生教室にて座学が行われ、花のユリとの違いや、食用とされる百合根の歴史を学びました。

また、後日実施される圃場での芽摘み作業のやりかたや、芽摘みは百合根の管理において重要なこととであり、手作業でしかできないことを学びました。



講師をする大坂さん



芽摘みをする生徒の皆さん

七月八日に大坂さんの圃場にて現地学習会が実施され、芽摘みの作業を体験し、生徒たちは大坂さんに作業のコツなどを教わりながら楽しそうに作業しておりました。

忠類中学校の生徒たちにとって地元の特産物に携わる貴重な経験となりました。



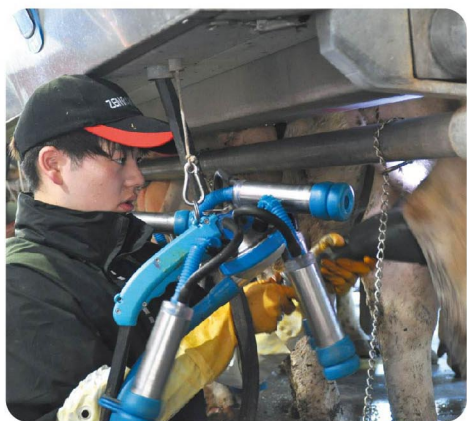
## 新採用職員農家実習の実施

本年四月一日付にて入組した新採用職員二名の農家実習を五月二五日から二九日の五日間で実施致しました。各職員の実習報告は以下の通りです。

営農部生産販売課畜産担当

田中空良

私は、桑原俊明さんのお宅で五日間実習させていただきました。実習としては、朝と夕方のパーラーでの搾乳作業が主な仕事でしたが他にも牛舎の掃除や餌やり、牛舎見学など今まで自分が見たことのない貴重な体験ができてとても新鮮でした。



すべて初めての経験でわからないことばかりでしたが、五日間の実習を通して牛という生き物と直接触れ合い育て、その牛でしっかりと搾乳できることの嬉しさ、牛が病気にかかり牛乳が出荷できなくなる時の厳しさ、そのため搾乳するには良質なえさが必要になるなど酪農は様々なことと繋がっているという深さを学ぶことができました。それ以外にも酪農に対する熱意や人間への気遣い、温かさなど仕事以外の面でも勉強させていただきました。これから組合員さん方々のお役に立てるよう日々頑張る、またこの経験を活かしてこれからの十勝の農業に精一

杯貢献していきたいです。桑原家の皆さん五日間大変お世話になりました。

管理部管理課

田口大貴

私は、石黒和彦さんのお宅にお世話になり、五月二五日から二九日までの五日間実習をさせていただきました。実習では、牛の搾乳や餌やり、牛舎の掃除等の作業を朝と夕方にお手伝いさせていただきました。

搾乳などの作業も初めての経験だったのですが、そもそも牛を間近で見ることや触ること自体初めてであり、お手伝いさせていただいた作業全てがとても貴重な体験だったと改めて感じます。



また、石黒家の皆様が優しく迎えてくださったことや、丁寧に作業のことなどを説明してくださったこともあり、慣れない作業で大変ではあったものの充実した五日間の実習を過ごすことができました。

初めは牛の間に入り、搾乳することに対して恐怖感がありましたが、経験していくうちに、少しずつですが慣れることが出来て、楽しく作業することが出来ました。

今回の実習で学んだ多くのことを糧にしなが、組合員さんの方々のお役に立てるよう日々の業務に取り組みしていくと感じました。

石黒家の皆様、五日間大変お世話になりました。ありがとうございました。





## 第四回 理事会

開催日 令和一年四月二十八日

### 付議事項

- 議案第一号 非常勤理事の使用人兼務の決定について
- 議案第二号 組合長職務代理順位の決定について
- 議案第三号 理事の報酬額および支給時期の決定について
- 議案第四号 行政庁に提出する業務報告書について
- 議案第五号 経理規程の改正について
- 議案第六号 草地難防除雑草駆除対策事業に係わる施業者の選定について

- 一. 生乳生産状況について
- 二. 幕別町畜産祭りの中止について
- 三. 畑作構造転換事業の需要報告について
- 四. 畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業の需要報告について
- 五. 畜産・酪農生産力強化対策

### 事業の需要報告について

- 六. 草地難防除雑草駆除対策事業の需要報告について
- 七. 流動性カバレッジ比率について
- 八. JA懇談会の意見集約について
- 九. 組合員異動報告について
- 十. コンプライアンス事故報告について
- 十一. 人事異動の発令について(五月一日付)

## 第五回 理事会

開催日 令和二年五月二十六日

### 付議事項

- 議案第一号 令和二肥料年度肥料取扱要領について
- 議案第二号 固定資産の取得(リース)について(経済部)
- 議案第三号 固定資産の取得について(管理部)
- 議案第四号 出資金の減口承認について
- 議案第五号 要員計画について
- 議案第六号 マネロンおよびテロ資金供与対策に関するガイドラインとギャップ分析

### について

- 議案第七号 不良債権の処理方針並びにJAバンク北海道独自基準に対する改善計画について
- 議案第八号 令和二年度生乳生産目標数量の設定および個別配分について

### 協議事項

- 一. 持続可能な北海道農業の確立に向けた組織討議について

### 報告事項

- 一. 生乳生産状況について
- 二. 南十勝酪農ヘルパー有責任事業組合決算並びに事業計画について
- 三. 特定組合員収支状況報告(四月末)について
- 四. 組合員異動報告について

## 第六回 理事会

開催日 令和二年六月二十六日

### 付議事項

- 議案第一号 信用事業規程の一部訂正について
- 議案第二号 給与規程の一部改

### 正について

- 議案第三号 ディスクロージャー誌の開示について
- 議案第四号 出資金の譲渡承認について
- 議案第五号 出資金の減口承認について
- 議案第六号 幕別町農業者年金協議会委員の推薦について

### 報告事項

- 一. 農作物生育状況並びに生乳生産状況について
- 二. 中小酪農経営等生産基盤維持・強化対策事業の需要額報告について
- 三. 畜産ICT事業および楽酪GO事業の需要額報告について
- 四. 生乳流通体制合理化推進事業および酪農経営災害緊急支援対策事業の需要額報告について
- 五. 理事と組合の間における利益相反取引に伴う実績報告について
- 六. 第一・四半期余裕金運用実績について
- 七. JA財務モニタリング実施

□

2	9	3	8	1	4	5	6	7
7	4	6	9	5	2	3	8	1
8	1	5	7	3	6	4	2	9
1	8	9	2	7	5	6	4	3
4	3	2	6	9	1	8	7	5
5	6	7	4	8	3	9	①	2
9	2	⑧	5	6	7	1	3	4
6	7	1	3	4	9	2	5	8
3	5	4	1	2	8	7	9	6

答え

9

		3		4				
				5				1
	1						2	9
			2			6		
4			9					5
	7			3				
9	2							3
6			4					
		1			7			

□ 二重枠に入った数字の合計はいくつ？

出題●ニコリ

ルール

- (1) 空いているマスに、1から9までの数字のどれかを入れます。
- (2) タテ列(9列)、ヨコ列(9列)、太線で囲まれた3×3のブロック(それぞれ9マスあるブロックが9つ)のいずれにも1から9までの数字が1つずつ入ります。

数独



- 八、各連及び十勝管内農業団体・各種委員会の役員・委員報告について
- 九、組合員異動報告について
- 十、職員異動報告について

(公財)日本体操協会

## 「The Taiso」

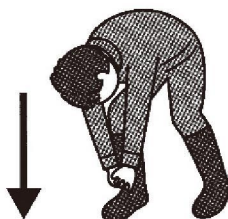
(4)背腹部前曲げ、後ろ曲げ

1



脚を肩幅に開き、両手を組み、親指を立てて顎に当てます。

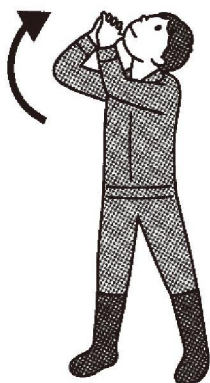
3



両手は組んだままです。膝を曲げながら上体の力を抜く気持ちで両手を下ろし、次に上体を起こし、手は胸の位置まで戻します。この動作を2回行い、(1)に戻り(2)(3)と体を動かしましょう。

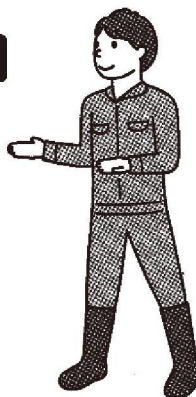


2



親指で顎を押し上げるようにして後ろに伸ばします。

4



上体を起こしたら、両肘を曲げ、手のひらを上にして次の動きに備えます。

※「イチ、ニ、イチ、ニ」とリズムカルに動きます。いすに座って行う場合も脚を開き、同じ運動をします。

「The Taiso」の動画はこちら



ザ・タイソウ 検索

ちゅうらいでも手軽に体操

日本体育大学教授●荒木達雄



# JAグループ北海道座談会 持続可能なJAの事業運営を考える(下)



## 【出席者】

**小林 国之**

北海道大学大学院農学研究院准教授

**柴田 倫宏**

JA北海道中央会専務理事

**宮本 英靖**

JAピンネ代表理事組合長

**佐藤 正昭**

JAこしみず代表理事組合長

出典:『北海協同組合通信2020新春特集号』  
「持続可能なJAの事業運営」北海道協同組合通信社

## 労働力確保や施設整備で支援

**小林** 農協の事業運営について、経営的な見直しはなかなか厳しいが、組合員と向き合い、結集力を高めることで事業を持続させていくという話があった。実際に農協で力を入れていく取り組みを紹介いただきたい。

**佐藤** 大切なのは生産力をきちんと上げることだが、うちも農家戸数の減少に伴って1戸当たりの耕作面積が増えている。そうすると、手間がかかる野菜などが減り、だんだん畑作3品中心の経営に戻っていつてしまう。これでは輪作の面でもよくない。一番の問題である労働力不足に対応するため、3年前に農作業支援事業を立ち上げた。今は外国人技能実習生と日本人合わせて15人おり、ニーズに応じて労働力の不足している農家などが活用している。

ふたつめは耕畜連携で、うちは畜産が販売高の2割ほどしかないが、条件が悪い農地を吸収してもらったり、安定的に堆肥を調達する上でも、畜産振興は地域にとって重要な課題だ。そこを重点的にやろうというので、酪農で数千ト規模の牛舎をつくる構想を立ててからもう5

年もたつ。畑作地帯だからなかなか場所がない。そのため、今は酪農する酪農家の牛舎を農協が借り上げ、そこからスタートしようと考えている。まずは生産力を維持することと、地域から人を減らさないこと。そのためにどんな仕組みをつくるか。黙っていても衰退の道しかないが、いろいろなことをやってみれば自然と人は集まってくるものだ。

もうひとつは、国のスマート農業実証プロジェクトの個人経営型に新十津川町の個人の農園が採用され、無人化・省力化に向けた機械導入に取り組んでいる。すでにドローンや田植え機については、行政と連携して助成金対応の中で導入を進めており、こうしたスマート農業にも地域を挙げて取り組んでいきたい。これらハード・ソフトの両面から、地域の作付面積を維持し、生産力を高めていくことにより、それが総合事業の中で、金融や共済、経済事業にもつながっていくという考えだ。

**宮本** われわれのところは農地の8割が水田であり、中心となる米の生産性を高め、それをいかに集荷して有利販売していくかが農協の使命と考えている。1戸当たりの経営面積は平均16畝と、離農に伴ってこの10年間で2倍になっている。その中で米の施設については、行政の支援も受けながら新十津川町と浦臼町に1カ所ずつ、1万トの米ばら貯蔵施設があるが、3つめの1万トクラスを半乾ばら施設で整備したいという構想を持っている。現状の施設規模ではだんだん足りなくなってきたおり、次の策を打たなければ組合員の規模拡大に対応できない。遊休農地はなく、これからも1戸当たりの面積は増えていくだ

また、地方の農協は、行政や地域の皆さんと一体の組織、社会のライフレイン的な組織と位置付けられている。そのため、町の政策と共同で事業展開をしたり、逆にわれわれの取り組みに行政に入っていたりなど、そこは相互に参画していかなければならないと思っている。今も要請があれば、農協事業とはまったく関係がなくても、組織体をつくって行政と一緒にやっているし、そうすることによって、財政面を含め、農協の事業に対して行政から支援をいただける部分もある。

## 生産性を上げるために必要な経費

**小林** 農協としてやらなければいけないが増える一方で、経営の効率化も進めなければならぬ。これまで北海道の農協は、例えば生活店舗を外部化したり、人件費などの事業管理費を削減しながら、何とか経営の合理化を進めてきたと思うが、今後を考えると、事業の外出しもある程度終わり、人件費の削減も限界にきている。加えて国からは「働き方改革」が求められており、これからどう効率を上げていくのかというところも課題。実際問題としてこれ以上、人を減らすわけにはいかないだろう。

**宮本** 逆に増やさざるを得ないのが現状で、すでに米の調製施設などは、働き方改革に対応するため、2班から3班体制に変更しており、青年部の皆さんに手伝ってもらって何とか人手を確保している状況だ。

加えて事業管理費も上がる。特に大きいのは管理部門のチェック機能で、すべてにおいてダブルチェックが必要、ひとりでは対応してはいけない、行動するときも2〜3人で動くようにとの監査指導が入っており、これによる人件費

の上昇が大きい。

**佐藤** 事業管理費は間違いなく上がる。下がることはないだろう。特に、農作業支援事業などをやると農協全体で抱えるコストは上がっていく。加えて一番困っていることは、地方にはなかなか良い人材が集まりにくくなっていること。大学と連携してインターンシップをやりながら人材確保に取り組んでいるが、そこが難しくなってきた。女性職員もかつては8割が準職員だったが、もう正職員でなければ定着は望めない。社会環境の変化に合わせて、資格試験なども活用しながら、段階的に正職員にしていかなければだめだろう。

**宮本** うちも準職で採用しても、初級の資格を取れば3年後には正職員の道を約束している。皆さん試験に真剣に取り組んでくれており、正職員になった後は管理部門以外も経験させるよう人事も合わせて対応している。

**小林** 事業管理費の上昇は避けられない状況だが、こしみずの農作業支援事業などはまさに農家をサポートする素晴らしい取り組みだ。今後、部門としての収益性についてはどう考えているのか。

**佐藤** そこが問題だ。派遣先の農

家個々からはそれぞれいただくが、支援事業はこれから先、農協の基幹的な事業になると思う。そこは将来的に営農指導の対価をどうするかということを含めて、考えていく必要がある。同時に、町の基幹産業を育てるためには行政の支援もいただきたい。酪農の法人化の話も、町と農協が出資する形で、しっかり経営管理しながら進めていきたいと考えている。そこで掛かるコストについても内部でしっかり議論していかなければならない。生産性を上げるために必要な経費だということ、組合員の皆さんと共有しなければできない話ではない。今こそ協同組合として、組合員にも意識変革を求めていかなければだめだろう。

**小林** 農協の仕事は農産物の販売など目に見える事業だけでなく、地域に関わるさまざまなことがある。それが経費でいうと事業管理費として出てくるわけだが、今後はどこかの段階で、手数料や賦課金のあり方を含め、農協の営農指導事業とは何かという話を整理して、個々の農協でどこまでやるのか、それをやるためにはどれだけコストがかかるのか、ひとつひとつ議論していくことも必要になってくるだろう。

**宮本** 実は、うちは2008年

で営農賦課金をもらっていないかった。旧新十津川農協は賦課金がかかったので、98年の3農協合併の折に、合併しても賦課金はもらわず、そのため営農指導にかかる資金は総合事業の中でやりくりしていたが、営農渉外課を設けたのをきっかけに賦課金をもらうことにした。水準は空知管内の平均で組合員1人当たり1万円、水田は10坪当たり200円で、6万円が上限。これについては組合員から大きな反対もなく理解いただくことができた。

**佐藤** うちも賦課金はもらっているが、施設を建てるときに出資金ももらわずにやってきた。農協経営の中でしっかり内部留保し、自分たちの努力でやるという方針だったから。ただし、これからはそうは言っていられない時期がくると思う。これから考えられるのは、手数料そのものを上げるのは無理だと思うが、コストとして掛かるものはいたたくという形だろう。

一方、もらうばかりではなく、うちは事業分量配当で毎年約1億円を組合員に戻している。300戸強だから1戸平均30万円ほどだが、それを経営主の退職金として積んでいる。10年たてば300万円、20年たてば600万円になる。農家には



退職金制度がないので、農家の経営管理のひとつとして、そういう仕組みも考えておかなければならない。税金対策も同じで、相続や贈与税など総合的な税対策となるとあまり準備していない人も多く、農協がサポートしていかなければ。農家の経営を守るためにはそういう仕組みも必要だし、農協の経営にとっても重要になっている。

**柴田** 今回の事業基盤に関する検討に関しては、農水省も全国の農協に対し、営農指導を含めた経済事業を黒字化するよう指導しているが、最近では赤字だからすべてだめだというのではなく、農協が総合事業をやっていく中で、全体としてコントロールできているのであれば問題ないのではないか、という言い方に変わってきている。経済事業は黒字にしてほしいという本来の思いはありつつも、例えば都市型農協などであれば、黒字までいなくても賦課金をもたらうことで「きちん」とコントロールできていけると言えるのなら、外からいろいろ言う必要はないのではないかと。当然、コントロールできていないところに対しては厳しい対応になるが、農水省内でも少し流れが変わってきたように感じる。われわれとしてもそれに沿って取り組ん

でいきたい。

その中で金融事業をめぐる環境が厳しいというのは共通した課題であり、この先も持続可能な経営基盤を確立する上で、それぞれの農協が自分たちの強みや弱みを考えて取り組んでいくということだと思う。奨励金など環境の変化に応じて各農協で毎年シミュレーションを繰り返しながら、中央会もそれを共有し、収支の改善見通しや安定的な収支を確保するためにはどうあるべきかなど、その農協に合わせたお手伝いをしてきたいと考えている。

ただし、この間、農協改革などを通じてさまざまなことがあったが、農協に対する社会の意識も変わりつつあるのではないかと。江藤農水大臣の就任あいさつでも、これだけ全国で災害が毎年ある中で、地域のJAのあり方については、本来の経済事業だけでなく、地域への貢献などをきちんと評価しなければだめだと発言していたし、併せて家族経営の位置づけをどうするのかという問題提起もしていた。時の大臣がああいう発言をしたのは重要なこと。潮目が変わってきたのではないかと感じている。

**佐藤** 農水省も農協改革の中で農協に対していろいろと厳しいことを

やってきたが、中身をよく調べてみると、逆に協同組合が地域でどういうことをやっていたのか、見えてきたのではないかと。私自身、自分たちが進んでいる道は間違いない、正しかったんだと改めて感じている。

**小林** これからは「正しかった」ということをもっと声に出し、内外にわかりやすく伝えていくことが重要だろう。全国の農協でも組合員との対話として職員訪問などを実施しているところがあるが、ピンネの営農渉外課やこしみずの農作業支援事業などの取り組みは全国でも驚かれる事例だと思う。中央会と連携し、北海道からもぜひいろいろな形で発信していただきたい。小清水では農作業支援事業に人を呼ぶためラジオ番組などの媒体もどんどん活用して発信している。

**佐藤** やるほうは大変だが、ラジオを聞いて実際に人が来てくれれば達成感があり、また頑張ろうとなる。その積み重ねが大事だと思う。

農作業支援事業に関しても、町内で廃校になった高校の跡地を活用して拠点施設をつくろうと今動いているが、その構想を上げてきたのは職員。かなり大きな施設だし、ランニングコストもかかる。これは大変だと思ったが、一緒になってやっていく

と形ができてくる。やらなければ何も生まれないが、やることによって何か生まれる。衰退よりは何かすること。それを職員が自分たちで考えて提案してきたところに心を打たれた。総代会で反対されればできないが、農協はそういう組織であり、組合員が受け止めることも大事だと思う。

**柴田** 職員の思いがそのような形で積み上がってくると、今度は理事者も組合員の皆さんに理解してもらおうと頑張る。そうしたひとつひとつの積み上げが、協同組合運動の原点という気がする。

**事業間連携など結び付き柔軟に**

**小林** 持続可能なJAのあり方ということでは私が感じているのは、今は北海道に108JAがあり、これから少し合併が進む可能性はあると思うが、例えば事業間連携など、JA同士がもつと有機的に結び付くことによって、コスト面では事業管理費を削減したり、販売面ではより機敏な対応を可能にするといったことも求められていくのではないかと。

**佐藤** オホーツク管内は14農協あり、うちを含めて合併はそれほど進んでいないが、これからは管内14



農協が連携し、共通の課題を持ち寄りながら、将来ビジョンをつくっていくことが大事だと思う。その中で事業間連携に関して言えば、うちにはオホーツク農協連がある。小さな農協は人材確保が大変なので、各農協ではできないような事業の中身を精査し、それに対応できる人材をオホーツク農協連に集め、いつでも相談できるような組織にしていきたいと考えている。全道的な課題には中央会が対応してくれるが、管内特有の悩みというのもある。農協の駆け込み寺ではないが、オホーツク農協連を核にして、単体の農協事業のことでだけではなく、組織全体で地域を守り、共有のオホーツクブランドを大切に育てていくという、もっと広いところに向けていかなければだめだと思う。また、そうした相互的な取り組みを進めることによって、それを見ている組合員にも、協同組合やJAグループの大切さが自然と伝わっていくのではないかと考えている。

**宮本** うちも事業連携に向けた新たな取り組みとして、中空知地域のJAたきかわ、JA新すながわ、ピンの3農協の間で選果施設の共同利用を検討してきた。青果物などの選果施設は各農協で持っているが、水

田の規模拡大に伴い、どこの農協も野菜の生産規模が小さくなってきた。そのため3農協で事業連携を組む、共通する品目の選果施設を共有化できないかということを経年前に提案し、最初に花きの集荷・選果施設で実現することができた。JA新すながわの花をうちの施設で選別し、産地もしっかり明記しながら出荷している。また、たまねぎはJA新すながわが広域の事業連携で中心的な役割を担っており、この部分でも何とか中空知3農協で事業連携が組めないかという提案をしている。このほか、アスパラ、いんげんなども、それぞれの農協で小規模な施設を持つているが、地域で連携が取れないかと提案している。時間はかかるかもしれないが、規模が縮小して施設を維持できなくなる前に、何とか2つ、3つの事業連携を形にしていきたいと思っている。組合員のためにも、ぜひ進めていきたい。

**佐藤** 施設をまとめるのは大変だ。オホーツクでもビーンズファクトリーをつくったが、あれは実現するまでに5年ぐらいかかった。管内のどん粉工場の再編も同じで、ようやくひとつ区切りがつくが、これは10年かかった。一度まとまれば行政などの支援も得られるが、やはりわ

が町、わが農協という思いがあるから時間がかかる。しかし、いよいよひどくなってきたら遅い。先の話をしていかなければ。

**柴田** 厳しくならないとまとまっていけないというのはまったくそのとおりで、ピンチをチャンスとして捉えないと、事業間連携などの話は出てこないと思う。例えば農協合併についても、今までのようにどンドン進めればいいとは思われないし、皆さんが考えた結果が単独での総合事業体だとすれば、その体制を維持していくためにできることは何か、各農協や地域で考える土壌が出来つつあるというのは、ある意味チャンスだと感じる。その中には、いろいろな事業間連携もあれば、施設の効率利用もある。それらの範囲でやるのか。地域や事業内容によって、オホーツクのような地区単位でやる場所もあれば、中空知のような農協単位でやれるものもある。そういう皆さんの協議の場に、われわれ中央会やホクレン、信連など連合会が入りながら、JAグループの役割を北海道全体で考え直し、トータルコストを圧縮していきけるよう、中央会としてもできる限りのことをしていきたい。

また、全国的に持続可能な事業運

営のあり方ということが出てきているのは、金融店舗やATMの集約化などを通じて浮いた人員を対話型の業務に回すというのが大きな柱になっている。そう考えると、ピンの営農渉外課などはまさにそれだし、こしみずの農作業支援事業を含め、全国の動きを先取りした取り組みが道内で動いていると言え。北海道からもこうした事例を積み上げ、全国に発信していく必要があるだろう。

**小林** これまで組織基盤の強化については、最初に合併目標を掲げ、そこに向かって北海道もやってきたが、今は各JAの考え方を最優先し、単独でいくのであれば支援していきましようというスタンスに変わっている。そこをこれからも大事にしながら、農協のあり方をもう少し広い視野から柔軟に考えていければ、JAというのには十分に持続可能な存在であり、再評価されてきている部分もある。これまでやってきたことに自信を持って取り組みつつ、まずは組合員や地域の人たちに理解してもらいながら、外にも発信していただきたい。今日はありがとうございました。（おわり）



がんばれ!日本の農業

JAグループ北海道の連合会・中央会の活動内容を紹介します。各団体の詳しい取り組み内容はWEBサイトをご覧ください。

# JAグループ通信

## JA北海道中央会

JAグループ北海道では、4月中旬より中止しておりました「国産花き販売会」を、6月5日(金)より感染防止対策に十分配慮した上で、札幌市北農ビル(札幌市中央区北4条西1丁目1番地)で再開いたしました。

新型コロナウイルスの感染拡大により、イベントや式典の中止が相次いでおり、国内の花き需要は大幅に減少しています。そこで、JAグループ北海道では「花を贈って応援! みんなのよい花プロジェクト」と題して、「国産花き販売会」の実施により、国内の花き農家を応援しております。販売会は7月までの毎週金曜日の開催を予定しております。

JAグループ職員のみならず、花が好きな方や花き農家を応援してくださる方、JAグループ北海道を応援していただく方など、たくさんのお客様にお越しくださいしております。引き続き、是非ご自宅にお花を飾り、花き農家を応援しています。



## JA共済連北海道

令和2年度に道内各市町村の消防本部へ寄贈する救急自動車が決まりました。救急自動車の寄贈は、地域社会貢献活動の一環として、昭和50年から毎年取り組んでおり、昨年度までに、延べ206台の救急自動車を道内各地の消防本部へ寄贈しております。

今年度は、上川北部消防事務組合消防本部中川消防支署(中川町)、網走地区消防組合消防本部大空消防署(大空町)、大雪消防組合消防本部美瑛消防署(美瑛町)の3か所となります。今後も行政とJAとの連携を図りながら、交通事故の防止と被害者救済への取り組みを強化してまいります。



## JA北海道信連

令和元年度に、JAバンクの食農教育活動として、「親子で学ぼう!あぐりキッチン教室」を全道JAの協力を受け、開催しました。その開催目的は、子どもの農業に対する理解を深め、北海道農業やJA・JAバンクのサポート層を拡大することにあります。

先ごろ、農協観光の優績JA表彰において、当活動が地域の交流・活性化に寄与したと認められ、地域交流部門の優秀賞を受賞しました。



## JA北海道厚生連

新型コロナウイルスの影響で一時中止しておりました人間ドックですが、すべての病院・クリニックにて再開しました。

一部でご利用いただけなかったお客様が、感染対策の徹底を図っておりますので、安心して受診ください。どうぞよろしくお願いいたします。

ホームページはこちらです。どうぞご覧ください。



## ホクレン

ホクレンは、北海道日本ハムファイターズと共同で展開している「北海道農業応援プロジェクト」の一環として、同球団選手と道内生産者が交互にメッセージを送り合う「キャッチボールトーク」動画を制作、同プロジェクトの特設サイトに公開しました。登場しているのは、JA道青協の村田辰徳会長、JA道女性協の青山伸子会長ら生産者と、ファイターズの中島卓也、近藤健介両選手らそれぞれ5人ずつで、新型コロナウイルス対策や農作業、トレーニング内容などについて交互に語り、メールを交換していました。



# 酪農場・畜産農場における防疫対策 ～牛サルモネラ症を中心とした伝染病対策(1回目)～

十勝南部地域の農場では、ここ数年で牛サルモネラ症やヨーネ病などの発生が増加しています。病原菌は農場外から入ってくることが多く、防疫対策として農場内への侵入防止対策を基本に、農場内でのまん延防止対策が必要となります。一方、農場の規模拡大に伴い、集乳車や飼料配送車、畜産関係者などの車両や人の出入りが増加しています。このため、個々の酪農場での対応だけでは限界があり、地域全体での防疫体制を確立することが大切です。これらの感染症が一度発生すると身体的・精神的・経済的負担が大きく、発生を予防する対応が必要です。



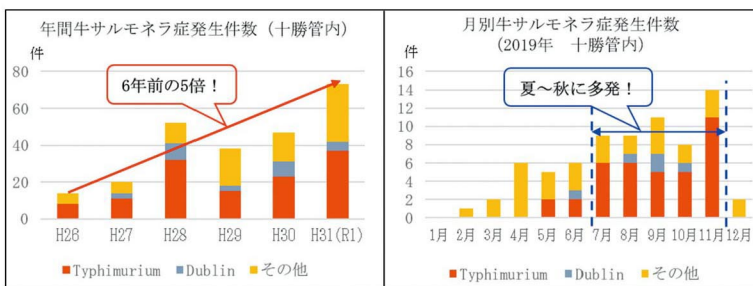
車輪跡がくつきり着くまで石灰を散布

## ①病原菌を農場に入れない ②農場内で広げない ③牛の免疫力を高めるための飼養管理

を確実に実行しましょう。感染症のなかで「牛サルモネラ症」を取り上げ、その予防対策について連載します。シリーズ1回目は概論(サルモネラの侵入経路、罹患した牛の症状など)について解説します。

## 1、十勝管内の牛サルモネラ症発生状況

十勝管内では牛サルモネラ症の発生件数が6年前の5倍に増加しています。一年の中でも特に7月～11月の暑い時期に多発しています。それは暑さに弱い乳牛の体力が落ちて免疫力が下がるためだと考えられます。しかし、冬季間にも発生が見られることから一年を通じた防疫対策が必要です。データ提供:十勝家畜保健衛生所



※同じサルモネラ症に感染する病原菌でも、**届出伝染病対象となる菌種**とそれ以外の菌種があります。

届出伝染病の原因となる菌の種類:「Typhimurium(ティフィムリウム)」・「Dublin(ダブリン)」

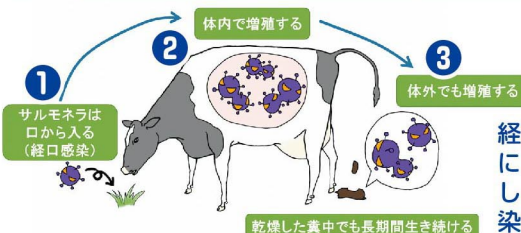
## 2、牛サルモネラ症による経済的損失

牛サルモネラ症が発生した十勝管内の酪農家3件で、清浄化までに実際にかかった費用等の実例です。予想以上に経済損失があることが分かります。※互助会などによる補填金額は含まれません。

農場	A	B	C	
頭数規模	約40頭(つなぎ)	約80頭(つなぎ)	約680頭(フリーストール)	
対策期間	約3ヶ月	約7ヶ月	約3ヶ月	
陽性牛淘汰頭数	4頭	3頭	154頭	
対策費	環境改善に要する経費	178,930円	284,108円	2,350,000円
	治療費	97,240円	866,700円	3,000,000円
	検査費	40,440円	71,711円	311,000円
	自主淘汰	1,455,000円	1,690,360円	29,788,000円
	生乳廃棄	154,176円	698,815円	2,705,000円
計	1,925,786円	3,611,694円	38,154,000円	

## 3、サルモネラの侵入経路

サルモネラは経口感染です。採食だけでなく、牛舎内で罹患牛の糞便が付着した箇所を健康牛が舐めることで感染します。一方、サルモネラは感染牛の唾液からも感染します。採食場所や水飲み場など牛の口が直接接触する場所は日常的に衛生管理を行うことが大切です。



経口感染により牛の体内に入ると、糞便中に排菌し、牛舎環境を汚染、感染拡大につながります。

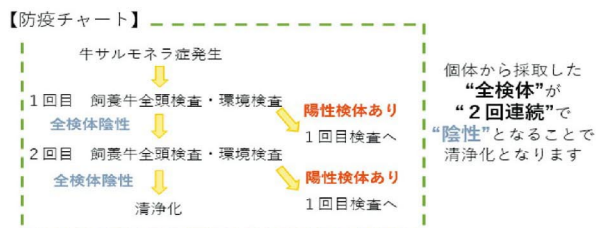
## 4、罹患した牛の症状

届出伝染病以外のサルモネラに感染した牛は、明らかな症状を示す場合が少ないため、発見が難しいです。大抵は販売先での導入時の着地検査で発覚することが多く、感染した牛はそれまで飼育していた期間に排菌しているので、知らないうちにサルモネラが農場内にまん延している恐れがあります。**発生防止対策(侵入防止・拡散防止・飼養管理)を徹底し、サルモネラの感染を防ぎましょう。**

菌種	牛の症状
届出伝染病 ティフィムリウム ダブリン エンテリティディス	食欲不振、発熱、下痢、流産
届出伝染病以外 (04群、07群、08群 など)	明らかな症状を示す場合が少ない

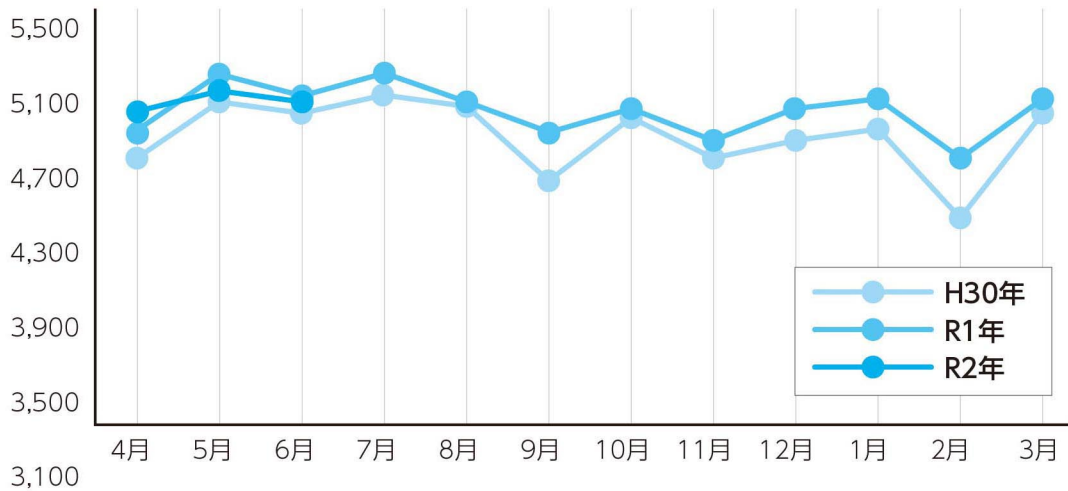
## 5、発生～清浄化までの道筋

牛サルモネラ症の発生が確認されたら、清浄化されるまで2週間ごとに定期検査が行われます。対策期間は、個体検査で全頭が2回連続「陰性」になるまで続きます。清浄化まで最短でも1ヶ月以上かかります。**その間は原則、個体の移動自粛となる**ことから、飼料費の増大や労働的に大きな負担となります。





# 生乳生産状況表



## ホクレン十勝家畜市場だより



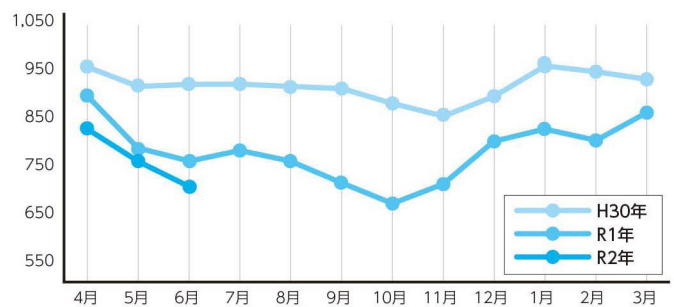
### 乳牛

- 売買頭数：384頭 (成立69.8%)
- 平均価格 (税込)：705千円 (先月比↓50、前年比↓46)

#### 相場予想

先月の平均価格は、夏分娩中心の時期となったこともあり、相場は弱含みで推移しました。今月は、上場頭数が増加し、夏分娩中心となるため平均価格は弱含みで推移すると考えられます。

#### 乳牛市場〈初妊牛〉平均価格の推移



### 黒毛和種・F1

#### 結果速報

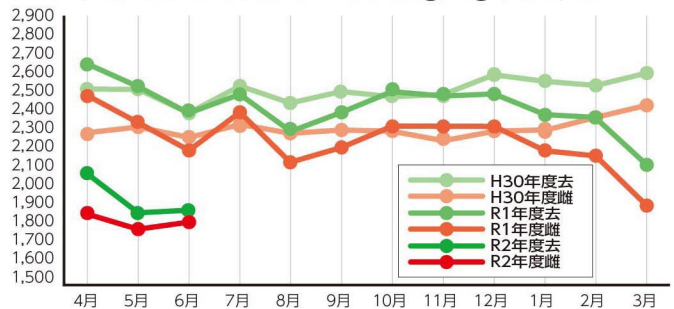
##### ● 売買頭数

- 黒毛和種去勢 1,097頭 (成立90.9%)
- 乳用交雑種去勢 1,519頭 (成立89.1%)
- 黒毛和種雌 815頭 (成立93.2%)
- 乳用交雑種雌 1,433頭 (成立95.9%)

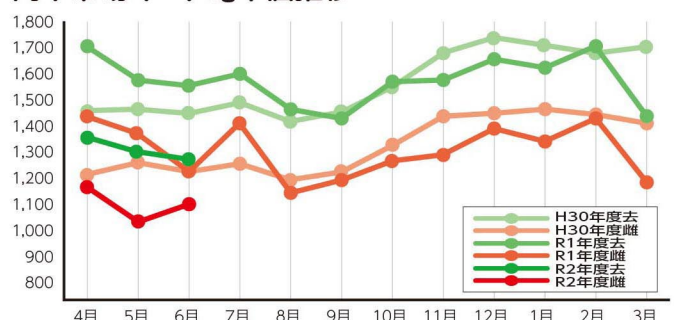
##### ● kg単価

- 黒毛和種去勢 1,963円 (先月比 ↑11)
- 乳用交雑種去勢 1,218円 (先月比 ↓45)
- 黒毛和種雌 1,791円 (先月比 ↑38)
- 乳用交雑種雌 1,038円 (先月比 ↑70)

#### 肉牛市場〈黒毛和種251-300kg〉kg単価推移



#### 肉牛市場〈F1〉kg単価推移



# 健康情報

～JA北海道厚生連 帯広厚生病院発～

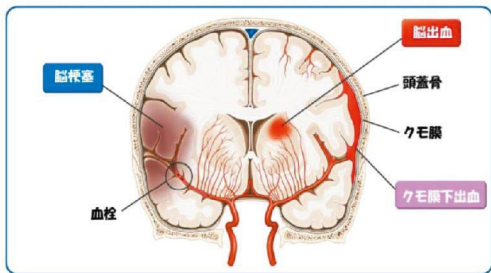


特集

## 脳卒中を防ぐために 知っておきたい生活のポイント

### 脳卒中はどんな病気？

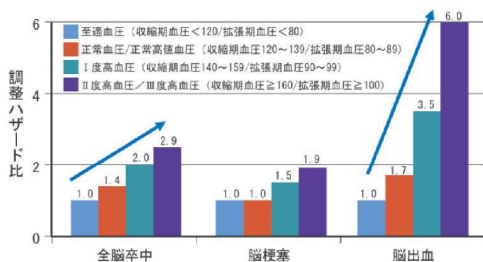
動脈硬化が進行した全身の血管病のひとつです。これには血管が詰まる脳梗塞と血管が切れる脳出血・くも膜下出血があり(図1)、発症すると命を失う、また寝たきりになることも少なくありません。誰もが罹りたくない病気の一つですが、良くない生活習慣の見直しや内科疾患などの危険因子をかかりつけ医と相談して適切に管理することで、その発症を抑えることが可能です。



(図1)

### ポイント1. 「まず高血圧から治しましょう」

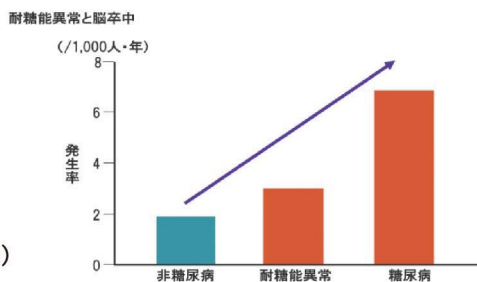
収縮期血圧/拡張期血圧が120/80mmHg未満の人に比べて、収縮期が140mmHgを超えると脳卒中発症の危険が2倍、さらに160mmHgを超えると3倍になります。特に脳出血発症の危険が6倍と急激に高くなり注意が必要です(図2)。毎日決まった時間にゆっくり落ち着いた状態で血圧を測り、目標は135/85mmHg未満です。



(図2)

### ポイント2. 「糖尿病は放っておかない」

糖尿病はすぐに薬による治療が必要とならない前段階(耐糖能異常)の時点でも、脳卒中発症の危険が1.5倍に、そして糖尿病になってしまうと3-4倍にまで高まります(図3)。放っておくと必ず悔いが残ります。

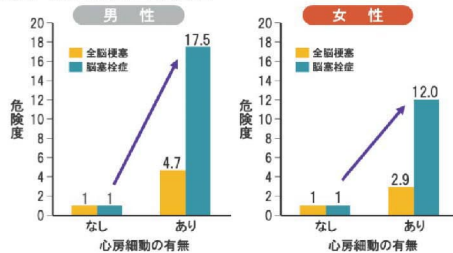


(図3)

### ポイント3. 「不整脈、気づいたらすぐ受診」

心房細動という不整脈がある人は、ない人に比べて3-5倍も脳梗塞になりやすいと言われます。特に心臓内にできた血栓が脳血管に流れて行って詰まる脳塞栓症という脳梗塞のタイプの発症が10倍以上に高まります(図4)。抗凝固薬を飲むことで、その発症を約6割抑えることができるので、脈の乱れや動悸をたびたび感じる方は、放っておかずにかかりつけ医に相談してください。

心房細動の有無と脳梗塞および脳塞栓症

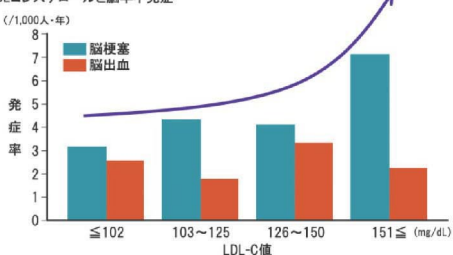


(図4)

### ポイント4. 「高すぎるコレステロールも放っておかない」

コレステロールのうち悪玉と呼ばれるLDLコレステロールが151mg/dLを超えると脳梗塞発症の危険が急激に高まります(図5)。人それぞれの動脈硬化のリスクにもよりますが、140mg/dL未満が推奨されています。この目標に向かって、食事では青魚を増やし、栄養は偏らずに脂肪は20-25%、コレステロール摂取量は1日200mg未満が良いとされています。

LDLコレステロールと脳卒中発症

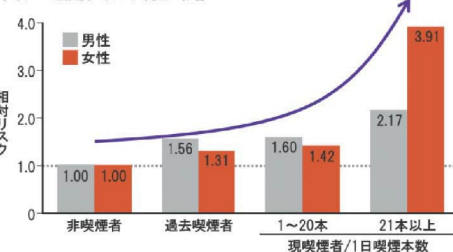


(図5)

### ポイント5. 「飲酒は控えめに、タバコは止める」

お酒を飲み過ぎると、脳卒中に罹りやすくなります。特に高血圧があり、1日1.5合以上(日本酒で換算)の飲酒習慣のある人は、ない人に比べて、脳出血発症の危険が3倍になります。飲み過ぎに注意し、1日の飲酒量の目安は、ビール中びん1本(500ml)、日本酒1合、焼酎なら0.5合、ワインはグラス2杯程度となります。タバコを吸う人は脳卒中を発症しやすく、吸わない人に比べ、1日1-20本の人で1.5倍、21本以上の人で2-4倍も脳卒中による死亡の危険が高まります(図6)。脳卒中を防ぐためには、タバコを止める強い意志が必要です。

脳卒中死亡危険度に及ぼす喫煙の影響



(図6)

### ポイント6. 「塩分・脂肪は控えめに、体力に合った運動を続けよう」

塩分のとり過ぎは高血圧のもととなり、脳卒中発症につながります。目標は1日男性で8gまで、女性で7g、特に高血圧の人は6gまでとされています。うす味を心がけ、酢やレモンなどで工夫して味付けをしましょう。ほとんど運動をしない人は、汗をかく程度の運動を週4回以上続けている人に比べて、脳卒中を発症する危険が1.2倍に高くなります。まず歩くことから始め、1日30分以上、できれば60分、息がはずむ程度のスピードが目安となります。

**終わりに** 1年に1回は健康診断を受けましょう。帯広厚生病院では脳ドックも実施しています。詳しくはホームページでご確認ください。

帯広厚生病院ホームページ

■ URL  
<https://www.dou-kouseiren.com/byouin/obihiro/>  
 ■ QRコード スマートフォン/携帯電話をお持ちの方は右記のQRコードを読み取り、アクセスしてください。





お手持ちの免許証は運転している車両に対応していますか？

実は中型免許しか持っていないな—  
敷地の中ばかり走るし、そんなに公道走るのは少ない機会だし、わざわざ免許取りに行かなくても...



今！！

必要な免許を保有せずに走行している方への取り締まりが強化されています！

場合によっては、**罰金・減点・取消**などの罰則が課せられます。

けん引免許

特殊・作業免許

大型免許



公道を走行する方は見直しましょう！



安心・安全な運行作業のために、  
今一度 ご自身・ご家族・仲間  
同士で確認しましょう！！

